

# スポーツキャリアからみるエリートサッカー選手のスキル獲得についての研究

## A study of skill acquisition of the elite soccer player who sees from sports career

1K05B160

長島 大

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 倉石平先生

### 序論

日本のサッカーは、1970年代から取り組んできた若年層育成システムの整備が進み、一貫指導が整ってきたことにより FIFA ワールドカップに1998年フランス大会以降3大会連続出場を果たしてきた。しかし、ワールドカップ本戦では、2002年日韓大会でグループリーグは突破したものの決勝トーナメント初戦敗退、1998年フランス大会と2006年ドイツ大会においてはグループリーグ最下位と世界トップレベルとの差は顕著であった。このような現状を打破するために、小野(1998)も述べているように、今後とも一人一人がしっかりとした基本技術の裏付けを持ち、より「クリエイティブでたくましい選手」を育成することが必要なのではないかと考える。そこで、本研究では、「クリエイティブでたくましい選手」の育成に焦点を当て、スポーツキャリアとエリートサッカー選手のスキル獲得との関係について実態を明らかにし、日本サッカー界のさらなる発展と「JFA2005年宣言」を達成するために少しでも貢献したいと考える。

### 方法

2008年関東大学リーグ1部、2部、東京都大学リーグに所属する18~23才の間の大学の男子サッカー部員311名を対象とし、Ward, Paul, Hodges, Starkes, and Williams(2007)の研究を参考にしたオリジナルのアンケートを実施。今までで活動した最も高い競技レベルという質問を行い、国際レベル、全国レベルと回答した選手をエリートグループ、9地域レベル、都道府県レベル、市町村レベル、学校内レベルと回答した選手をサ

ブエリートグループと分類した。分析はエリートグループとサブエリートグループとでt検定を行った。配布数650票に対し、有効回答率は311票(47.8%)であった。

### 結果

1)エリートは、サブエリートに比べてサッカーを早い時期にプレーしている。2)エリートは、サブエリートに比べてチームで定期的な練習を始めた際に、楽しさ優先ではなくスキル向上優先の練習を行っている。3)エリートは、サブエリートに比べて最も高い競技レベルで始めてプレーする時期が遅い。また、エリートもサブエリートも、最も高い競技レベルを中学生の時期に経験している。4)今年、高校時代、小学生時代において、エリートは、サブエリートに比べて1週間あたりの「チーム練習」の回数が多い。5)小学生時代において、エリートは、サブエリートに比べて「チーム練習以外」の1回あたりの平均時間、すなわち、自主練習の時間が少ない。という結果が明らかとなった。

### 考察

#### 1. サッカーの早期経験と普及

JFAは、U-6・U-8・U-10世代をキッズと称し、ワールドカップ2002年日韓大会を皮切りに多くの子どもたちが笑顔でサッカーを楽しみ、健康で平和な世界となることを願って「JFAキッズプロジェクト」をスタートさせた。このようなキッズプログラムの取り組みを根気よく続けることで、スポーツ文化が醸成され、定着していく中で、より早い時期にサッカーを経験、プレーし、サッカーを選択し

ていく子供たちが増えていくのではないかと考える。

## 2. サッカーの早期専門化と指導者

よりサッカーの専門性を高めるためにキッズリーダー講習をはじめとするキッズ年代における育成、指導の分野においてサッカー専門化を推し進めてもよいのではないかとということである。そうすることで、親自身がサッカーを真に理解することでよりよい環境を整えることができると思う。

## 総合考察

今後ともサッカー発展に関わる研究を続ける必要があるといえる。そして、「Players First」「Enjoy Football」という言葉である。どんな時も、子どもたちにとって何が一番良くて、良くないのかを子どもの立場になって考えることが大事であり、サッカーを楽しみ、子どもがサッカーを好きになるようにすることが大切である。サッカーは本当に魅力的なスポーツでそこから得られ経験は計り知れない。そんな経験を子どもたちにもして欲しいと私は考える。